

冬を守ろう 住民熱意

降雪減る長野・白馬村

雪がどんどん少なくなっている。長野県白馬村には例年、パウダースノーを自当てに毎年国内外から大勢のスキー客が集まるが、地球温暖化が村の観光資源を奪っている。国連気候変動枠組条約第28回締約国会議（COP28）が開催される中、防災につながるなどの願いも込め、自然災害をもたらす温暖化から村を守ろうと立ち上がった住民たちを取材した。

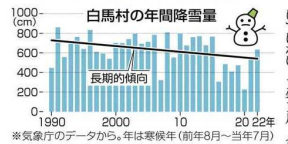
（城石愛麻）



① 真冬が今年を駆け去った。白馬村の自然を学ぶ行動計画推進員をまとめた（右から）高田久人、尾川佳子ら。いずれも長野県白馬村。



実質再生可能エネルギー100%電力で動いているスキーリフトを紹介する八方尾根開発の松沢さん



白馬村住民が村に提案したゼロカーボン行動計画

七つのテーマ 取り組み事例

- ① 建物の断熱
 - 全ての新築建物の消費エネルギーを実質ゼロに
- ② 移動・輸送
 - 公用車や地域交通のEV化
- ③ 事業活動の低炭素化
 - 新条例の制定、宿泊・索道事業者への課税
- ④ エネルギー
 - 地域エネルギー会社設立
- ⑤ 家庭における省エネ
 - 地域コンポスト導入、まきストーブ購入補助
- ⑥ 人材育成
 - 役場職員などの研修体制整備
- ⑦ 公共施設
 - 公共施設の屋根にソーラーパネル設置

目標 2030年までにCO₂排出量を **68%削減!** (16年比)

再エネ100%リフト

白馬村の住民が気候変動への取り組みの「キープレーヤー」としたスキー場。村内の白馬八方尾根スキー場で15のスキーリフトを運営する会社「八方尾根開発」は、全てのリフトとレストラン、降雪機に使う電力を実質100%再生可能エネルギーに切り替え、村の脱炭素化をリードしている。方法として、新電力会社から「非化石証書」を購入している。証書を購入した分だけ、再エネなど化石燃料以外の電力を使ったとみなされる仕組みだ。2020年12月から22年4月までに段階的に導入し、年間で1200%のCO₂排出量を削減した。リフトの柱などに「CO₂ FREE」と表示したシールを貼り、観光客らにアピールしている。同社SDGマーケティング部の松沢瑞木さん(51)は「自然破壊が不可避な観光業者こそが取り組むべきだ。他のスキー事業者にも広がれば」と話す。

スキー場など脱炭素化を提言

3番目に入っ「気候非常事態宣言」を表明。有識者会議は22年1月には「白馬村のゼロカーボン」をテーマに、脱炭素を実現するための基本方針を掲げた。住民同士で気候変動を学ぶ勉強会が開かれる。脱炭素に向けた機運が高まりつつある。しかし、「ゼロカーボン」は、村役場と住民の協力が不可欠だ。村役場は「脱炭素宣言」は、住民の熱意が村を動かしている。11月22日、村は環境シンポジウムを主催し、提言書も紹介した。登壇した丸山村長は「地球温暖化は最も大きな課題と危機感を表明。取材に『観光地として気候変動に取組まなければ、もはや選べない。住民の協力を得なければ、提言書を良い形で活用した16年比で脱炭素(CO₂)削減」を話した。

「できることから地に足を着けて」

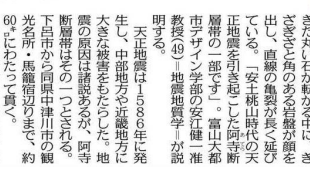


石炭火力発電の増設を阻止する運動の中心人物として知られる。白馬村が気候変動宣言したことで、村は知事選で得られたばかりだが、気候変動に関する住民の熱意が、村の未来を左右する。松沢さん(51)は「自然破壊が不可避な観光業者こそが取り組むべきだ。他のスキー事業者にも広がれば」と話す。

地震起きる可能性 意識して

阿寺断層帯(岐阜県) 岐阜県下市町断層帯の飛騨川河川敷。上流から流れてきた丸い石が転がる中、大きな音の響きや土の動きが確認されている。安土桃山時代の天正地震をきっかけとした阿寺断層帯の一部で、富山県下市町断層帯の安江隆一准教授(40)は「地震地帯が説明する。天正地震は1586年に発生し、中津地方や近畿地方に大きな被害をもたらした。阿寺断層帯は、この地震で発生した。下市町から同津川市の観光所へ、尾瀬川沿いまで、約80キロにわたって震く。断層帯が今年8月、地震で阿寺断層帯の場所を確認し、安全な避難経路を考えた。名古屋大防災連携研究センターの鈴木康弘教授(57)は「自然地理学は、自分の住んでいる地域の活断層帯を地図で確認し、地震が起きる可能性を正しく認識してほしい」と話している。

阿寺断層帯(岐阜県)



阿寺断層帯(岐阜県)



阿寺断層帯が今冬も大雪を降らす。馬場村に立派な大雪を降らす。江津教授、岐阜県中津川市。